

障害福祉分野の ICT 導入モデル事業における導入事例

法 人 名：社会福祉法人 溪明会

事業所名：障害者支援施設 溪明園 あすなろ

1. ICT 機器の製品名

タブレット端末 LAVIE T10 T1055/EAS プラチナグレー

2. ICT 機器導入前の課題

利用者の怪我や日常の様子を記録し共有するときには、限られた時間の中で伝え方の工夫が必要となり、情報の正確さや伝わりやすさに課題があった。

モニタリング調査の聞き取りでは、普段の生活状況を客観的に伝えることが難しく、情報共有が円滑に行えないことがあった。

3. ICT 機器導入の推進方法

- ・支援員や看護師等に対して、導入の目的を説明する。
- ・利用者の怪我では、現場支援員が判断に迷う場合、タブレット端末で撮影した写真を看護師に報告し、状態を確認する。看護師が処置前後に患部を撮影し、関係職員や主治医と情報共有する。
- ・相談支援専門員によるモニタリングでは、支援が難しい場合、利用者と保護者の同意を得て、日中や夜間の様子を動画撮影し、関係者と情報共有を図りながら支援のあり方検討する。

4. ICT 機器導入後の成果

①業務効率化について

タブレット端末で関係者に写真や動画で情報伝達することで、正確な情報共有が可能となる。
継続治療は定期的に患部を撮影し、状態変化の確認が可能となる。

②職員の負担軽減について

利用者の状態は関係者が目視せず、写真等で確認できるようになり、現地へ移動する時間が削減され、他業務に専念できるようになる。

5. 今後の課題

権利意識の向上について、利用者の怪我等の状態確認で、必要な患部だけを一度だけ撮影することで、利用者が恥ずかしいと思う気持ちを和らげることが見込まれる。

また、写真や動画撮影は利用者、保護者等に同意を得ているが、撮影される利用者にとっては、心地よいものではないため、毎回、細心の配慮が必要である。

6. 写真



法人ホームページの掲載



(記事内容)

富山県障害福祉分野の ICT 導入モデル事業

令和6年度富山県障害福祉分野の ICT 導入モデル事業として、利用者様の安全と情報共有のため、タブレット端末を活用しています。

事前に目的を説明し、ご理解を得た上で導入しています。

日々の活動や体調変化、お怪我の状況を写真や動画で記録し、状況把握や迅速な対応に役立っています。

特に怪我時には、現場の支援員が判断に迷う場合、タブレットを使って看護師に確認し、情報を共有しています。

また、モニタリングや必要に応じて関係機関へも情報提供しています。

今後もタブレットを活用し、関係者間の連携を強化し、安全で質の高いケアを提供してまいります。